

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200238
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 水車の家
所在地	愛媛県西条市周布494番地1
自己評価作成日	平成27年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・水車と水車小屋を設置しており、本物の水車が回っています。天気の良い日には石鎚連邦が良く見え、散歩や野外での行事ごとの際に活用している。 ・畑で野菜作りを行い、収穫等が利用者さんの楽しみの一つとなるよう心がけている。 ・毎月1回、避難訓練を行っている。そのうち年2回は防火訓練(消防署員指導)、年1回は津波想定避難訓練を行っている。 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>産婦人科医院跡を改築した事業所は、窓も大きく大変風通しの良い空間となっており、細部に渡って、掃除・整理整頓が行き届いた、とても快適な生活の場である。事業所内には、心地よいボリュームで有線放送が流れており、利用者が懐かしく口ずさむことができるような、唱歌などが選曲されている。法人代表者をはじめとして職員はみな、常に利用者を主体としてケアを実践しており、管理者を中心に職員が一丸となってより良いケアを目指している姿勢がうかがえる。法人内で合同の行事や会議が多いため、業務の振り返りを行ったり、より良い実践を取り入れる良い機会となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	水車の家
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	一色 千子
評価完了日	平成 27 年 07 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念と「感謝の気持ちを忘れない」という今年度の目標を掲げ、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。共有については毎朝の申し送りの時にスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念とは別に、法人全体と事業所独自の目標を、毎年職員で意見を出し合って作り替えている。共用部分や事務室等に掲示し、朝の申し送り時に復唱している。職員は皆、今日を、今を楽しく過ごしてもらいたいと願って支援を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方に、餅つき大会でついたお餅を送ったり、夏祭りに招待したり、中学生の福祉体験の受け入れたりしている。また、地域に在住している家族さんや職員、運営推進会議メンバーの情報から、民謡民舞大会や書道展などにも出かけている。</p> <p>(外部評価) 事業所の行事や法人全体のイベント等には、近隣の方や交番、介護相談員等もお誘いし、利用者や家族と共に楽しんでもらっている。今年の夏祭りでは、利用者を楽しんでもらうことを一番に考え、ゲームコーナーなど職員が趣向を凝らし、盛大に開催された。また、法人としての新たな取組みで、認知症カフェを開催している。地域の方が気軽に立ち寄れるよう、関係機関の方等がボランティアとして運営に協力してくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 開催時には、ホームの状況を伝え、年に1度はスライドショーを作成して日頃の様子を伝えている。設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂き、話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、年度初めに開催日等の年間予定表を提示することで、参加しやすいよう工夫している。また、会議内で意見が出しやすくなるような工夫として、一般的な会議形式ではなく、小グループを作って座ってもらい、そのグループ内で意見を出し合い、後に発表する形式をとっている。また講座やセミナーの内容を取り入れる際にも、10分ずつの短時間に設定することで、より多くの参加者が発言し、会議全体が活発化している効果が感じられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、助言や指導をしてもらい、サービスの質の向上を図っている。また、介護相談員の受け入れや運営推進会議への主席もしてもらい、アドバイスをもらったり、意見交換をしている。	
			(外部評価) 市の職員が運営推進会議に参加するほか、月に1回、介護相談員の来訪がある。 市の担当者含め、関係機関の方とは緩やかなつながりを目指しており、休日のイベントにご家族も連れて参加してくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。家族さんの了承を得て市に届け出た上で、やむを得ず拘束を行った事もあるが、実施方法や回数の改善に取り組み現在は行っていない。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。	
			(外部評価) 年1回、拘束しないための研修会等を実施している。スピーチロック等に関しても、職員はお互いに確認し合う関係性があり、先輩職員が新人職員に声を掛けて指導する等、日常的によりよりケアの実践に向けて取り組んでいる。転倒リスクが高い利用者には、ベッドではなくフロアに布団を敷いて対応する等工夫し、拘束しない方法でのケアを追及している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内勉強会で虐待について学んでいる。明らかな虐待だけでなく虐待になりかねない行為も、職員間で話し合い「ちょっと待って」と言う声かけの減少に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内勉強会で学び、理解できるように努めている。現在、成年後見制度制度を利用している方もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。改訂時には家族会でも話しをしている。その時に限らず、その都度話し合う時間を作っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的に行い、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に一度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。	
			(外部評価) 日頃から家族とは積極的にコミュニケーションを取っており、面会に来てもらいやすい雰囲気作りを心掛けている。また、年1回開催している家族会では、家族同士で和やかに話ができるよう、職員は席を外し、お互いの介護体験について語り合う等、情報交換や情報共有の場としている。これらの機会から、家族等の思いを事業所として把握する様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に一回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等 にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員 にて各チーム（研修チーム、新聞チーム、企画チーム、 安全衛生チーム等）を運営し、意見や提案を取り入 れ、反映させている。 (外部評価) 定期的に管理職の会議や申し送り等が行われている が、職員は日頃から上司や先輩職員に対し、気軽に相 談したり意見が言える環境になっている。事業所で は、利用者にとって馴染みの存在になれるよう、法人 内の職員の異動はほとんど行わないため、職員間のコ ミュニケーションが密にとれる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその 都度話し合う時間をもち確認している。また、資格取 得に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って 働けるような職場環境になるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 社内で研修チームを設置し、毎月、実技形式と講義形 式の勉強会をしている。その他、勤務年数に応じて研 修を行っている。参加できなかった職員には管理者か ら内容を伝えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしてい る	(自己評価) リーダー研修への参加や受け入れを行い、同業者と交 流する機会を設け意見交換などを行っている。良い所 や改善点を職員間で報告や相談をし、サービスの質の 向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取り ながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職 員間で共有している。また、不安が少しでも軽減でき るように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気 持ちは理解できるように、側で過ごすように努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に普段の様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今何が必要かを話し合い、相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などでもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるよう参加の呼びかけをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくりと過ごす時間を持つるよう支援している。絵葉書が趣味の方は馴染みの方に送付している。馴染みの場所については、以前によく行っていた初詣やお花見の場所などに出かけるようにしている。 (外部評価) 家族だけではなく、茶道の先生をしておられた利用者のお弟子さんが面会に来る等、面会者はとても多い。以前から利用している理容室へ現在も通っている利用者も多く、家族による介助が難しい場合は職員が付き添っている。利用者のその日の様子や職員の状況を見ながら、臨機応変に個別支援を行うよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でなるべく職員が間に入るようにしている。家事を利用者間で協力しながら行えるように支援し、男性利用者も参加している。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者には職員が面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、退去時に記念に植えて下さった樹木の花が咲いた時には写真を撮って届けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい雰囲気にかけており、得た情報はフェイスシートに記入して申し送り、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 意思疎通が困難な利用者については、家族に意向を確認するなどして、若い頃の職業や趣味を日頃のケアに生かせるよう工夫している。茶道や華道、マッサージなど、利用者の特技を日常的なレクリエーションに生かす等、出来る限り入居者の意向に沿った生活が送れるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。変化があれば、記入している。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤枠で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃から本人のしたい事を聞き、家族会や面会時に家族の意向を確認している。往診・受診時に医師の指示を確認し、適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。	
			(外部評価) 各種記録は、法人内で独自の共通様式を使用している。介護計画については、利用者にとって達成しやすい身近な事柄での目標設定や、利用者が楽しみにしている事を盛り込むことなどを心掛けている。また、最終的には計画作成担当者や法人代表者が確認する形ではあるものの、利用者毎の担当職員が、出来る範囲で介護計画を作成してみる方針で取り組んでおり、職員のレベルアップにつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の方の状況に応じて、通院支援や外泊時の送迎などの必要な支援に柔軟に対応するよう努めている。また、リハビリ室を設置し、他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の職員の方や、警察や消防の方などの協力は得られている。福祉体験などを通して学校との交流を持ったり、地域の催し物に出かけたりしている。商店での買い物にも出かけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 毎週協力病院の往診があり、状態の変化に応じて、適 宜、受診も行っている。また、本人や家族の希望を大 切にし、馴染みのかかりつけ医への受診も行ってい る。職員が受診に同行した場合には、受診状況の報告 を家族に伝えている。	
			(外部評価) 事業所の協力医が定期的に往診したり、入院が必要な 場合にはその調整も行ってくれている。必要時には、 協力医療機関の看護師が点滴に来てくれることもあ る。入居前からのかかりつけ医に、継続して通院して いる方が多い。家族の介助で外出している利用者もい るが、難しい場合は職員が介助している。事業所は、 訪問看護ステーションと契約をしており、定期的に看 護師の訪問がある。その他、気になることがあれば、 随時電話で相談することができるため、在宅酸素療法 等医療依存度の高くなってきた利用者に対しても、職 員は安心して日々のケアにあたることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人内に訪問看護が併設しており、状態変化や気づき は看護師に報告している。状態変化がない時も定期的 に看護師が様子を見に来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、 退院後の受け入れ態勢を整えるよう努めている。ま た、普段よりケースワーカーとの関わりを持ったり、 医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を 含めての話し合いを持っている。また、終末期に対 しての指針を定めており、説明も十分に行っている。 (家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わな い。) 職員間の意識の確認も行っている。	
			(外部評価) 家族が希望する場合には、事業所での看取りも積極的 に取り組んでいる。その利用者の主治医による往診や 訪問看護ステーションによる訪問等、出来る限りの対 応を行っているが、経口での食事摂取が難しくなった 利用者に関しては、事業所での生活は困難であると事 前に家族等へ説明し理解してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時などの対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行っている。その内、年に2回は消防署員立ち合いのもと夜間出火想定で行い、年に2回は津波を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議などで、老人会会長に協力の依頼をしている。	
			(外部評価) 毎月避難訓練を行うことで、実際の災害時にも慌てることなく冷静に対処できるよう備えている。火災の他、地震や津波等を想定し、また日中・夜間等様々な状況での訓練を実施している。歩行が難しい利用者の避難方法として、布団で利用者をくるんで階段を降りる等の練習も積極的に行っている。また、水や食料品など備蓄品も準備しており、老人クラブ等、近隣の方々からも可能な限り応援すると声掛けをしてもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重した関わりをもつように心がけている。社内の勉強会でも声かけや対応について学んでいる。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気をつけていくようにしていきたい。	
			(外部評価) 新人研修や定期的な研修等において、接遇面の内容にとっても力を入れている。利用者への声掛けも、親しみのある、かつ、利用者を尊重したものであるよう心掛けており、その利用者にとって最善と思われる、またその日その時の状態で最善と思われる声掛けを行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。飲み物、衣服、入浴など日々の生活の中で自己決定できる場面づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 外出など、その時々希望に合わせて行うよう努め、難しい時には出来る時間や日を提案しているが、職員の都合に合わせてもらっている事もある。また、言葉に出来ない方は、その方がどうしたいのかを考えて行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時など、服を選んでもらっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらったりしている。散髪時には本人の意思や家族の希望に合わせた髪型にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、エビの皮むき、もやしの根取り、さやえんどうのすじ取り等は利用者も一緒に行っている。片付けは出来る利用者の方は毎日している。ホールに献立表を置き、その日のメニューを見て会話したりしている。 (外部評価) 法人内の管理栄養士が献立を立て、1階フロアにある厨房で、調理係兼介護補助として配置されている職員が調理している。職員は、朝食・夕食は利用者と同じメニューを、昼食のみ各自が持参した食事を一緒に食べている。持参した昼食で、利用者と会話が盛り上がることも多い。お正月や敬老の日等の季節の行事や、お誕生日会などに合わせて、赤飯を炊いたりケーキを用意するなどメニューも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めているが、介助し過ぎている部分もある。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄が間に合わない人は早めの声かけを行っている。出来る所は自分でしてもらい、出来ない部分の介助を心がけている。おむつの使用については、声かけやトイレ誘導を行い、可能であればパットを中止したり、開閉式オムツからリハビリパンツへ変更するなどしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を付けることで、利用者の排泄パターンを把握するとともに、その日の様子をよく観察し、適切なタイミングでの声掛けを行うよう心掛けている。排尿がなくても、一旦は便座に座ってもらうよう勧めたり、失禁を恐れずに布パンツへ切り替える等の工夫を行うことで、おむつの方がリハビリパンツへ、リハビリパンツの方が布パンツへ改善している利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分摂取量を記録し十分取れるように努力している。また、リハビリ室の利用や散歩、体操などで体を動かすようにしている。医師の指示のもと、下剤の調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) できるだけ、希望に近づけるよう努力しているが、夜間帯は職員が少ないので行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらうようにしている。入浴を好まない方には誘う時間や日、職員を変えるなどしている。	
			(外部評価) 1週間に少なくとも3回は入浴ができるよう声掛けを行っている。特に曜日を決めることはせず、その日の利用者の様子や希望に合わせ、また、同性介助を心掛けながら、臨機応変に対応している。夏季は午前中にシャワー浴を含め入浴を行っているが、冬場は午後の時間帯に時間をずらすようにしている。一般浴槽に利用者お一人ずつ、職員一名体制を基本として介助を行っており、浴槽への出入りが困難になってきた方については、洗い場にマットを敷いてシャワー浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その方の様子に応じて居室で休んでもらい、様子を見に行っている。また、ソファや玄関前のフロアにある椅子などでゆっくり過ごせるように、居室だけでなく共有スペースの環境整備もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師や医師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内に自動販売機を設置し、希望者は購入出来るようにしている。また、炊事や掃除、縫物をしたり抹茶をたてたりと、得意な事をお願いしている。季節ごとに花を見に出かけたり、散歩に出かけたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的には散歩やドライブに出かけている。利用者の方の希望で買い物やお墓参りに出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ外出、外泊出来るよう支援している。希望者は書道展や民謡民舞大会等の地域の催し物に出かけ、誕生日に食べたい物がある方とは外食に出かけている。 (外部評価) その日の利用者の様子や職員の勤務によって、歩行可能で外出を希望される利用者については、近くの店舗へ日用品を買いに出掛けたり、文化祭に参加したりしている。季節ごとの外出としては、車いすの方も外出ができるよう、法人内のリフトバスを使用し、お花見などの遠足を実施している。毎年、年間計画を事前に立て、その計画に基づいて各種イベントを企画している。	外出が困難になってきている利用者も増えており、個々の利用者の希望に沿った、個別対応による外出の支援が求められている。しかし、限られた職員体制での対応は現状として困難な面も多いことから、今後は家族や地域の方々の協力も検討する等の工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホーム内に自動販売機を設置し、希望者は購入出来るようにしている。金銭を自己管理している方はいないが、立て替え出来るようにしている。立て替える事に気を使わないように気をつけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望に合わせて、電話してもらったりしている。手紙は、本人さんが書きたい時などにやり取りできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 正月、七夕、クリスマスや利用者と摘んだ花など季節に応じたものを飾るようにし、ソファを置いて寛げられるようにしている。カーテンやエアコン、加湿器などで光や温度・湿度を調整している。ホーム内に音楽を流しているが、大きすぎないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。 (外部評価) 事業所内には心地よいボリュームで有線放送が流れ、利用者が馴染みのある唱歌を口ずさむ姿も見られる。事業所全体が整理整頓され、大変衛生的な空間となっており、掲示物に関しても必要なものが分かりやすく貼られている。玄関には利用者が活けた生花が飾られ、とても家庭的な雰囲気の中で快適な環境の中、利用者はもちろん職員も穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。玄関前フロアに木のテーブルと椅子を設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベッド・ダンス・テレビ・カーテンは備え付けているが、その他は使いやすい物を持って来てもらったり、職員と一緒に買いに行ったりしている。畳の部屋とフローリングの部屋があり、利用者の状態や希望で選択している。使いなれた椅子やソファを持ち込み、家族も過ごしやすくしている方もいる。 (外部評価) 居室にはベッドが用意されているが、利用者の状態によっては、畳マットを敷き布団で休めるように変更することができる。家族や友人が面会に来られた際にも、個室で快適に過ごしてもらえよう工夫することも提案している。日中は共有スペースで過ごす方が多いが、個室ではしっかりとリラックスできるよう、そっと見守りを行う等、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には花の絵を貼り、目印にしてもらっている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。自動販売機を設置し、自由に購入できるようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200238
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 水車の家
所在地	愛媛県西条市周布494番地1
自己評価作成日	平成27年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・水車と水車小屋を設置しており、本物の水車が回っています。天気の良い日には石鎚連邦が良く見え、散歩や野外での行事ごとの際に活用している。 ・畑で野菜作りを行い、収穫等が利用者さんの楽しみの一つとなるよう心がけている。 ・毎月1回、避難訓練を行っている。そのうち年2回は防火訓練(消防署員指導)、年1回は津波想定避難訓練を行っている。 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>産婦人科医院跡を改築した事業所は、窓も大きく大変風通しの良い空間となっており、細部に渡って、掃除・整理整頓が行き届いた、とても快適な生活の場である。事業所内には、心地よいボリュームで有線放送が流れており、利用者が懐かしく口ずさむことができるような、唱歌などが選曲されている。法人代表者をはじめとして職員はみな、常に利用者を主体としてケアを実践しており、管理者を中心に職員が一丸となってより良いケアを目指している姿勢がうかがえる。法人内で合同の行事や会議が多いため、業務の振り返りを行ったり、より良い実践を取り入れる良い機会となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 水車の家

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 一色 千子

評価完了日 平成 27 年 07 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念と「感謝の気持ちを忘れない」という今年度の目標を掲げ、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。共有については毎朝の申し送りの時にスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念とは別に、法人全体と事業所独自の目標を、毎年職員で意見を出し合って作り替えている。共用部分や事務室等に掲示し、朝の申し送り時に復唱している。職員は皆、今日を、今を楽しく過ごしてもらいたいと願って支援を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方に、餅つき大会でついたお餅を送ったり、夏祭りに招待したり、中学生の福祉体験の受け入れたりしている。また、地域に在住している家族さんや職員、運営推進会議メンバーの情報から、民謡民舞大会や書道展などにも出かけている。</p> <p>(外部評価) 事業所の行事や法人全体のイベント等には、近隣の方や交番、介護相談員等もお誘いし、利用者や家族と共に楽しんでもらっている。今年の夏祭りでは、利用者を楽しんでもらうことを一番に考え、ゲームコーナーなど職員が趣向を凝らし、盛大に開催された。また、法人としての新たな取組みで、認知症カフェを開催している。地域の方が気軽に立ち寄れるよう、関係機関の方等がボランティアとして運営に協力してくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催時には、ホームの状況を伝え、年に1度はスライドショーを作成して日頃の様子を伝えている。設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂き、話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、年度初めに開催日等の年間予定表を提示することで、参加しやすいよう工夫している。また、会議内で意見が出しやすくなるような工夫として、一般的な会議形式ではなく、小グループを作って座ってもらい、そのグループ内で意見を出し合い、後に発表する形式をとっている。また講座やセミナーの内容を取り入れる際にも、10分ずつの短時間に設定することで、より多くの参加者が発言し、会議全体が活発化している効果が感じられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、助言や指導をしてもらい、サービスの質の向上を図っている。また、介護相談員の受け入れや運営推進会議への主席もしてもらい、アドバイスをもらったり、意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 市の職員が運営推進会議に参加するほか、月に1回、介護相談員の来訪がある。市の担当者含め、関係機関の方とは緩やかなつながりを目指しており、休日のイベントにご家族も連れて参加してくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。家族さんの了承を得て市に届け出た上で、やむを得ず拘束を行った事もあるが、実施方法や回数の改善に取り組み現在は行っていない。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。</p> <p>(外部評価) 年1回、拘束しないための研修会等を実施している。スピーチロック等に関しても、職員はお互いに確認し合う関係性があり、先輩職員が新人職員に声を掛けて指導する等、日常的によりよりケアの実践に向けて取り組んでいる。転倒リスクが高い利用者には、ベッドではなくフロアに布団を敷いて対応する等工夫し、拘束しない方法でのケアを追及している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内勉強会で虐待について学んでいる。明らかな虐待だけでなく虐待になりかねない行為も、職員間で話し合い「ちょっと待って」と言う声かけの減少に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内勉強会で学び、理解できるように努めている。現在、成年後見制度制度を利用している方もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。改訂時には家族会でも話しをしている。その時に限らず、その都度話し合う時間を作っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的に行い、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に一度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。	
			(外部評価) 日頃から家族とは積極的にコミュニケーションを取っており、面会に来てもらいやすい雰囲気作りを心掛けている。また、年1回開催している家族会では、家族同士で和やかに話ができるよう、職員は席を外し、お互いの介護体験について語り合う等、情報交換や情報共有の場としている。これらの機会から、家族等の思いを事業所として把握する様になっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チーム（研修チーム、新聞チーム、企画チーム、安全衛生チーム等）を運営し、意見や提案を取り入れ、反映させている。 (外部評価) 定期的に管理職の会議や申し送り等が行われているが、職員は日頃から上司や先輩職員に対し、気軽に相談したり意見が言える環境になっている。事業所では、利用者にとって馴染みの存在になれるよう、法人内の職員の異動はほとんど行わないため、職員間のコミュニケーションが密にとれる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境になるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内で研修チームを設置し、毎月、実技形式と講義形式の勉強会をしている。その他、勤務年数に応じて研修を行っている。参加できなかった職員には管理者から内容を伝えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) リーダー研修への参加や受け入れを行い、同業者と交流する機会を設け意見交換などを行っている。良い所や改善点を職員間で報告や相談をし、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共有している。また、不安が少しでも軽減できるように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちや理解できるように、側で過ごすように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に普段の様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今何が必要かを話し合い、相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などでもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるよう参加の呼びかけをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくりと過ごす時間を持つるよう支援している。絵葉書が趣味の方は馴染みの方に送付している。馴染みの場所については、以前によく行っていた初詣やお花見の場所などに出かけるようにしている。 (外部評価) 家族だけではなく、茶道の先生をしておられた利用者のお弟子さんが面会に来る等、面会者はとても多い。以前から利用している理容室へ現在も通っている利用者も多く、家族による介助が難しい場合は職員が付き添っている。利用者のその日の様子や職員の状況を見ながら、臨機応変に個別支援を行うよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でなるべく職員が間に入るようにしている。家事を利用者間で協力しながら行えるように支援し、男性利用者も参加している。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者には職員が面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、退去時に記念に植えて下さった樹木の花が咲いた時には写真を撮って届けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートに記入して申し送り、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 意思疎通が困難な利用者については、家族に意向を確認するなどして、若い頃の職業や趣味を日頃のケアに生かせるよう工夫している。茶道や華道、マッサージなど、利用者の特技を日常的なレクリエーションに生かす等、出来る限り入居者の意向に沿った生活が送れるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。変化があれば、記入している。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤枠で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日頃から本人のしたい事を聞き、家族会や面会時に家族の意向を確認している。往診・受診時に医師の指示を確認し、適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 各種記録は、法人内で独自の共通様式を使用している。介護計画については、利用者にとって達成しやすい身近な事柄での目標設定や、利用者が楽しみにしている事を盛り込むことなどを心掛けている。また、最終的には計画作成担当者や法人代表者が確認する形ではあるものの、利用者毎の担当職員が、出来る範囲で介護計画を作成してみる方針で取り組んでおり、職員のレベルアップにつながっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気付きや状態の変化は介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族の方の状況に応じて、通院支援や外泊時の送迎などの必要な支援に柔軟に対応するよう努めている。また、リハビリ室を設置し、他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 市の職員の方や、警察や消防の方などの協力は得られている。福祉体験などを通して学校との交流を持ったり、地域の催し物に出かけたりしている。商店での買い物にも出かけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 毎週協力病院の往診があり、状態の変化に応じて、適 宜、受診も行っている。また、本人や家族の希望を大 切にし、馴染みのかかりつけ医への受診も行ってい る。職員が受診に同行した場合には、受診状況の報告 を家族に伝えている。	
			(外部評価) 事業所の協力医が定期的に往診したり、入院が必要な 場合にはその調整も行ってくれている。必要時には、 協力医療機関の看護師が点滴に来てくれることもあ る。入居前からのかかりつけ医に、継続して通院して いる方が多い。家族の介助で外出している利用者もい るが、難しい場合は職員が介助している。事業所は、 訪問看護ステーションと契約をしており、定期的に看 護師の訪問がある。その他、気になることがあれば、 随時電話で相談することができるため、在宅酸素療法 等医療依存度の高くなってきた利用者に対しても、職 員は安心して日々のケアにあたることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人内に訪問看護が併設しており、状態変化や気付き は看護師に報告している。状態変化がない時も定期的 に看護師が様子を見に来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、 退院後の受け入れ態勢を整えるよう努めている。ま た、普段よりケースワーカーとの関わりを持ったり、 医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を 含めての話し合いを持っている。また、終末期に対 しての指針を定めており、説明も十分に行っている。 (家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わな い。) 職員間の意識の確認も行っている。	
			(外部評価) 家族が希望する場合には、事業所での看取りも積極的 に取り組んでいる。その利用者の主治医による往診や 訪問看護ステーションによる訪問等、出来る限りの対 応を行っているが、経口での食事摂取が難しくなった 利用者に関しては、事業所での生活は困難であると事 前に家族等へ説明し理解してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時などの対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行っている。その内、年に2回は消防署員立ち合いのもと夜間出火想定で行い、年に2回は津波を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議などで、老人会会長に協力の依頼をしている。	
			(外部評価) 毎月避難訓練を行うことで、実際の災害時にも慌てることなく冷静に対処できるよう備えている。火災の他、地震や津波等を想定し、また日中・夜間等様々な状況での訓練を実施している。歩行が難しい利用者の避難方法として、布団で利用者をくるんで階段を降りる等の練習も積極的に行っている。また、水や食料品など備蓄品も準備しており、老人クラブ等、近隣の方々からも可能な限り応援すると声掛けをしてもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重した関わりをもつように心がけている。社内の勉強会でも声かけや対応について学んでいる。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気をつけていくようにしていきたい。	
			(外部評価) 新人研修や定期的な研修等において、接遇面の内容にとっても力を入れている。利用者への声掛けも、親しみのある、かつ、利用者を尊重したものであるよう心掛けており、その利用者にとって最善と思われる、またその日その時の状態で最善と思われる声掛けを行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。飲み物、衣服、入浴など日々の生活の中で自己決定できる場面づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 外出など、その時々希望に合わせて行うよう努め、難しい時には出来る時間や日を提案しているが、職員の都合に合わせてもらっている事もある。また、言葉に出来ない方は、その方がどうしたいのかを考えて行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時など、服を選んでもらっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらったりしている。散髪時には本人の意思や家族の希望に合わせた髪型にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、エビの皮むき、もやしの根取り、さやえんどうのすじ取り等は利用者も一緒に行っている。片付けは出来る利用者の方は毎日している。ホールに献立表を置き、その日のメニューを見て会話したりしている。	
			(外部評価) 法人内の管理栄養士が献立を立て、1階フロアにある厨房で、調理係兼介護補助として配置されている職員が調理している。職員は、朝食・夕食は利用者と同じメニューを、昼食のみ各自が持参した食事を一緒に食べている。持参した昼食で、利用者と会話が盛り上がることも多い。お正月や敬老の日等の季節の行事や、お誕生日会などに合わせて、赤飯を炊いたりケーキを用意するなどメニューも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めているが、介助し過ぎている部分もある。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄が間に合わない人は早めの声かけを行っている。出来る所は自分でしてもらい、出来ない部分の介助を心がけている。おむつの使用については、声かけやトイレ誘導を行い、可能であればパットを中止したり、開閉式オムツからリハビリパンツへ変更するなどしている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を付けることで、利用者の排泄パターンを把握するとともに、その日の様子をよく観察し、適切なタイミングでの声掛けを行うよう心掛けている。排尿がなくても、一旦は便座に座ってもらうよう勧めたり、失禁を恐れずに布パンツへ切り替える等の工夫を行うことで、おむつの方がリハビリパンツへ、リハビリパンツの方が布パンツへ改善している利用者も多い。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分摂取量を記録し十分取れるように努力している。また、リハビリ室の利用や散歩、体操などで体を動かすようにしている。医師の指示のもと、下剤の調整をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) できるだけ、希望に近づけるよう努力しているが、夜間帯は職員が少ないので行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらうようにしている。入浴を好まない方には誘う時間や日、職員を変えるなどしている。</p> <p>(外部評価) 1週間に少なくとも3回は入浴ができるよう声掛けを行っている。特に曜日を決めることはせず、その日の利用者の様子や希望に合わせ、また、同性介助を心掛けながら、臨機応変に対応している。夏季は午前中にシャワー浴を含め入浴を行っているが、冬場は午後の時間帯に時間をずらすようにしている。一般浴槽に利用者お一人ずつ、職員一名体制を基本として介助を行っており、浴槽への出入りが困難になってきた方については、洗い場にマットを敷いてシャワー浴を実施している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方の様子に応じて居室で休んでもらい、様子を見に行っている。また、ソファや玄関前のフロアにある椅子などでゆっくり過ごせるように、居室だけでなく共有スペースの環境整備もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師や医師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内に自動販売機を設置し、希望者は購入出来るようにしている。また、炊事や掃除、縫物をしたり抹茶をたてたりと、得意な事をお願いしている。季節ごとに花を見に出かけたり、散歩に出かけたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的には散歩やドライブに出かけている。利用者の方の希望で買い物やお墓参りに出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ外出、外泊出来るよう支援している。希望者は書道展や民謡民舞大会等の地域の催し物に出かけ、誕生日に食べたい物がある方とは外出に出かけている。 (外部評価) その日の利用者の様子や職員の勤務によって、歩行可能で外出を希望される利用者については、近くの店舗へ日用品を買いに出掛けたり、文化祭に参加したりしている。季節ごとの外出としては、車いすの方も外出ができるよう、法人内のリフトバスを使用し、お花見などの遠足を実施している。毎年、年間計画を事前に立て、その計画に基づいて各種イベントを企画している。	外出が困難になってきている利用者も増えており、個々の利用者の希望に沿った、個別対応による外出の支援が求められている。しかし、限られた職員体制での対応は現状として困難な面も多いことから、今後は家族や地域の方々の協力も検討する等の工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホーム内に自動販売機を設置し、希望者は購入出来るようにしている。金銭を自己管理している方はいないが、立て替え出来るようにしている。立て替える事に気を使わないように気をつけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望に合わせて、電話してもらったりしている。手紙は、本人さんが書きたい時などにやり取りできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 正月、七夕、クリスマスや利用者と摘んだ花など季節に応じたものを飾るようにし、ソファを置いて寛げられるようにしている。カーテンやエアコン、加湿器などで光や温度・湿度を調整している。ホーム内に音楽を流しているが、大きすぎないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所内には心地よいボリュームで有線放送が流れ、利用者が馴染みのある唱歌を口ずさむ姿も見られる。事業所全体が整理整頓され、大変衛生的な空間となっており、掲示物に関しても必要なものが分かりやすく貼られている。玄関には利用者が活けた生花が飾られ、とても家庭的な雰囲気の中で快適な環境の中、利用者はもちろん職員も穏やかに過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。玄関前フロアに木のテーブルと椅子を設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ベッド・タンス・テレビ・カーテンは備え付けているが、その他は使いやすい物を持って来てもらったり、職員と一緒に買いに行ったりしている。畳の部屋とフローリングの部屋があり、利用者の状態や希望で選択している。使いなれた椅子やソファを持ち込み、家族も過ごしやすくしている方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドが用意されているが、利用者の状態によっては、畳マットを敷き布団で休めるように変更することができる。家族や友人が面会に来られた際にも、個室で快適に過ごしてもらえよう工夫することも提案している。日中は共有スペースで過ごす方が多いが、個室ではしっかりとリラックスできるよう、そっと見守りを行う等、配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には花の絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。自動販売機を設置し、自由に購入できるようにしている。</p>	